

2025 年度 日本造園学会関東支部大会

梗概集／事例研究報告集

第 43 号

Proceedings of the 43th Kanto Branch Meeting of
Japanese Institute of Landscape Architecture

公益社団法人 日本造園学会 関東支部

Kanto Branch of Japanese Institute of
Landscape Architecture



- 1 粗放的管理による市民参加型稲作手法実現のための実証実験 106
加藤真司・横田樹広・平田富士男・樋上啓子・札埜高志
- 2 ハザードマップの3D化における有用性の検証 106
藤生宇宙・黒川龍一・國井洋一
- 3 ゲームエンジンを用いた3Dモデルの差異が
物理シミュレーションに与える影響把握 106
麻生莉音・國井洋一
- 4 日本庭園における黄金比の把握にむけた TLS の活用 106
越水風翔・藤吉晃太・國井洋一
- 5 千葉県の戸建住宅地における空き地の経時的発生傾向とその要因 107
松原彩愛・寺田徹・新保奈穂美
- 6 浸水被害低減を目的とした GI 対策の評価 —佐賀県の洪水
浸水想定区域を対象として— 107
松崎海央・福岡孝則
- 7 群馬県下仁田町の近代養蚕農家・春秋館跡庭園遺構の復元 107
考察
ト半馨・栗野隆
- 8 日本庭園と歴史的風致に関する動態的考察 107
-京町家の庭の非可視的価値-
小椋菜美・塚田伸也・柴田昌三
- 9 毎木調査による大学キャンパス緑地の樹木構成と空間分布 108
の解析
湯浅咲菜・高橋俊守
- 10 横浜市の都市公園アクセス路のバリアフリー状況に関する 108
研究
堀遥斗・中村英夫・三友奈々
- 11 都市近郊の耕作放棄地再生における中間支援の機能と課題 108
安形芽生・柳井重人
- 12 露天風呂から見た自然景観の分析による利用評価の研究 108
藤田慧・國井洋一

粗放的管理による市民参加型稲作手法実現のための実証実験

○ 加藤真司・横田樹広
(東京都市大学 環境学部)

平田富士男・樋上啓子
(兵庫県立大学 緑環境景観マネジメント研究科)

札埜高志
(愛媛大学 農学研究科)

昨今のコメ価格の高騰傾向から、市民の稲作に対する関心が高まりつつあるが、農業従事者の高齢化や後継者不足から水田の放棄地化が懸念されている。そんな中で、稲作の担い手として注目されるのが農業とは無関係の一般市民である。水田でも、一般市民が貸農園的に稲作を行うことができれば、都市近郊の水田の保全の一助になりえるはずである。このため、一般市民でも実施可能な粗放型稲作手法を見出すために、都市公園を実験フィールドとして、粗放型稲作の実施とそれに伴う作業内容や作業量の把握、及びコメの収量の把握に努めた。また、モニターの実験参加によって一般市民の意識を把握し、市民参加型稲作実現の諸条件を明らかにした。

ハザードマップの3D化における有用性の検証

藤生宇宙・黒川龍一・國井洋一
(東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科)

日本は災害大国であり、ハード面の対策だけでなく、ソフト面の対策も行われてきた。1998年東日本豪雨災害の郡山市では洪水ハザードマップ閲覧者が、非閲覧者より避難率が高く、避難開始のタイミングが早かったことが明らかになっている。既往研究においては、山形市西原地区の洪水ハザードマップを閲覧し、所持している住民が全体の25%程度にとどまり、若年層のハザードマップ認知の低さが示された。ハザードマップは災害対策において有用であるにも関わらず、十分に活用されていない。そこで3Dハザードマップが災害教育において与える影響について、アンケート調査から明らかにすることを目的とした。

ゲームエンジンを用いた3Dモデルの差異が物理シミュレーションに与える影響把握

麻生莉音・國井洋一
(東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科)

近年DX化が進展する中、Society5.0では自然科学と人文・社会科学を融合したデジタルツインの構築が求められている。造園分野は生態系や都市空間を総合的に捉える特性から、この領域に貢献できると考えられる。しかし、造園分野に含まれる有機的要素は、物理的要素により構成された空間を基盤としており、3Dモデルと物理情報の関係性を把握せずにデジタルツインを構築することは困難である。そこで本研究では、異なる測量機材や処理方法で作成した3Dモデルを用い、ゲームエンジンによる物体落下シミュレーションを行い、モデル精度と物理シミュレーション結果の関係を分析することで、造園分野における3Dモデル精度を検討した。

日本庭園における黄金比の把握にむけたTLSの活用

越水風翔・藤吉晃太・國井洋一
(東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科)

日本の回遊式庭園は訪れる人々が一定の散策路を歩くことによって、異なる角度や位置から庭の景色を鑑賞できるように設計されている。鑑賞者によって景観の見え方が変化するため、空間の良し悪しに対する評価が観賞者の主観によるものになり普遍的な評価を得られないことが課題である。本研究では、空間を客観的に評価する指標として黄金比に着目し、地上レーザスキャナ (TLS) を用いて三次元的に計測および可視化を行った。これにより普遍的な評価を行うことが可能となり、造園空間においてはデザインが良好となる計画を行う上で有用性が考えられる。